

木材需給動向について (北海道地区)

2022年1月
林野庁

全国の木材需給動向について、
林野庁ウェブサイト（下記URL）にて
毎月資料を更新しています。
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/r
yutsu/kyougikai.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/r
yutsu/kyougikai.html)
（QRコードからもアクセスできます。）



さらに・・・

林産物に関するマンスリーレポート「モクレポ」
木材・木材製品、特用林産に関する最新の統計
データや、林野庁の施策に関するトピックス、セ
ミナー・イベントの情報などを取りまとめ、毎月
中旬に更新しています。
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei
/monthlyreport.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei
/monthlyreport.html)



目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギその他（北海道地区）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・北海道地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

(1) 全国の住宅着工戸数

(2) 北海道地区の住宅着工戸数

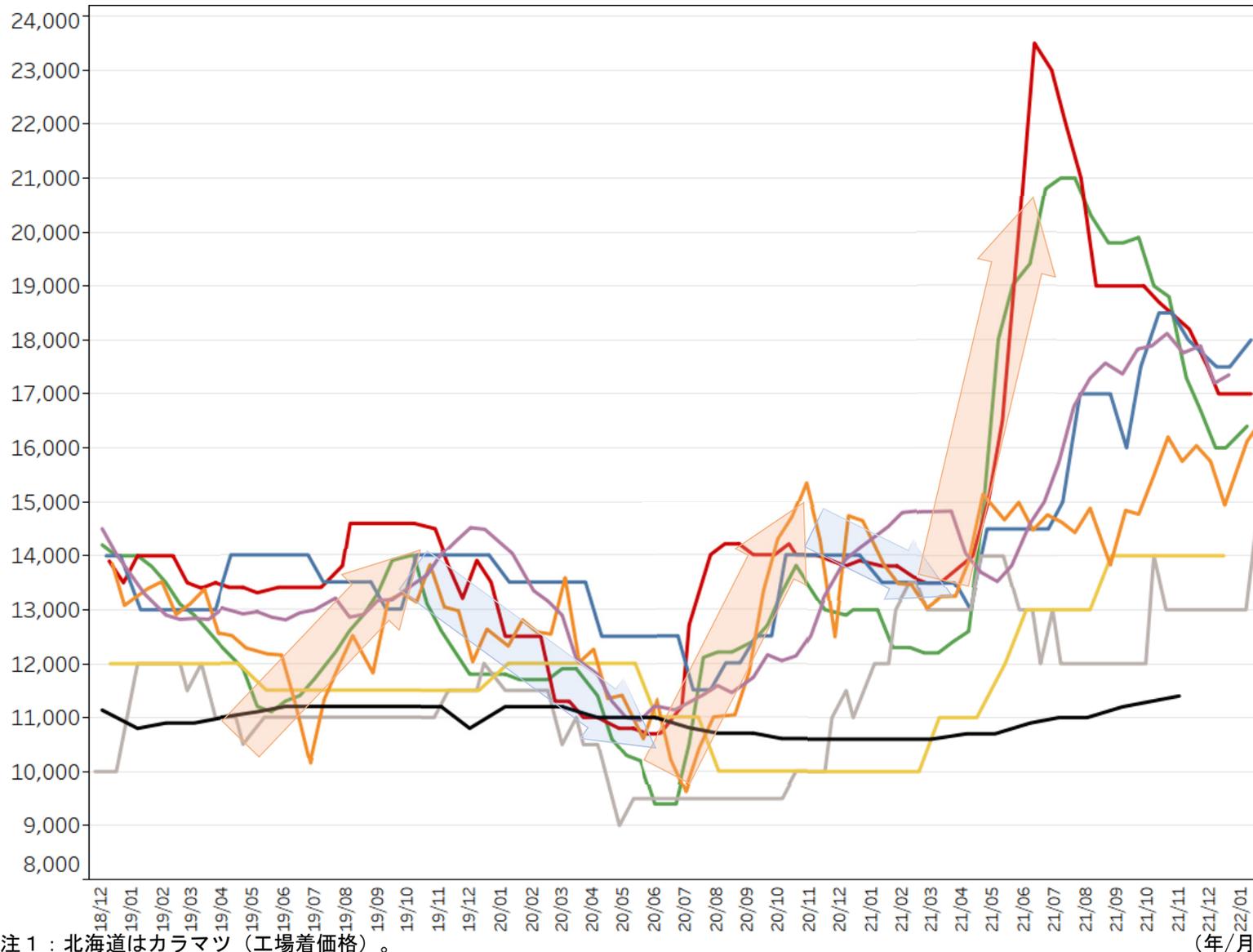
4 木材輸出量

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 例年であれば春から梅雨時期にかけては原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、価格が上昇する地域が多く見られる。九州地域では価格が高騰したが、直近では全国的に高止まり傾向。
- 直近のスギ原木価格は、前年同期比119%から140%となっている。

(円/m³)



都道府県	2021年直近*	前年同期	前年同期比
北海道	11,400	10,600	108%
秋田県	17,350	14,130	123%
栃木県	16,470	13,820	119%
長野県	14,000	10,000	140%
岡山県	15,000	12,000	125%
高知県	18,000	13,500	133%
熊本県	17,000	13,800	123%
宮崎県	16,400	13,000	126%

※栃木県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については1月、秋田県及び長野県については12月、北海道については11月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

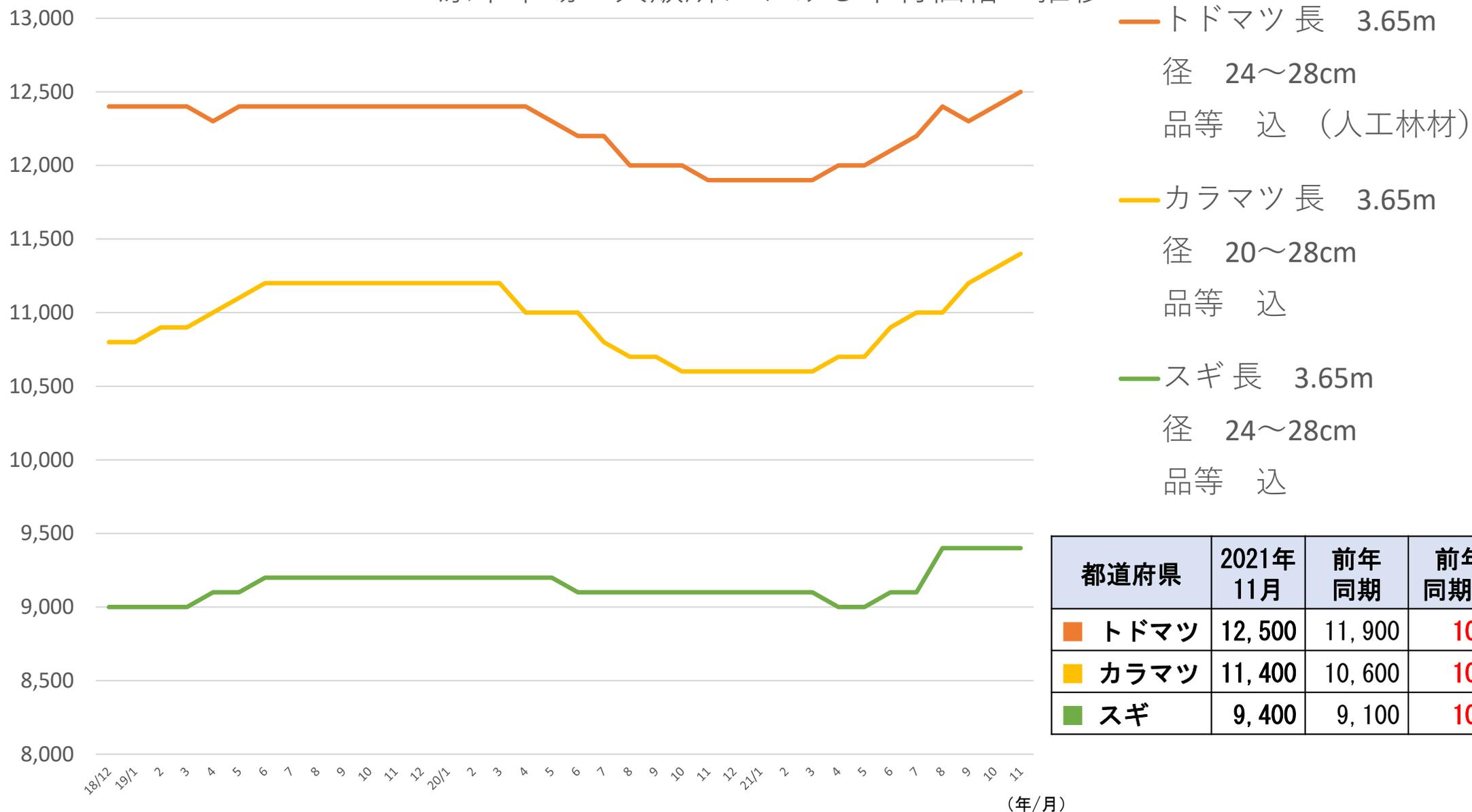
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギその他（北海道地区） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

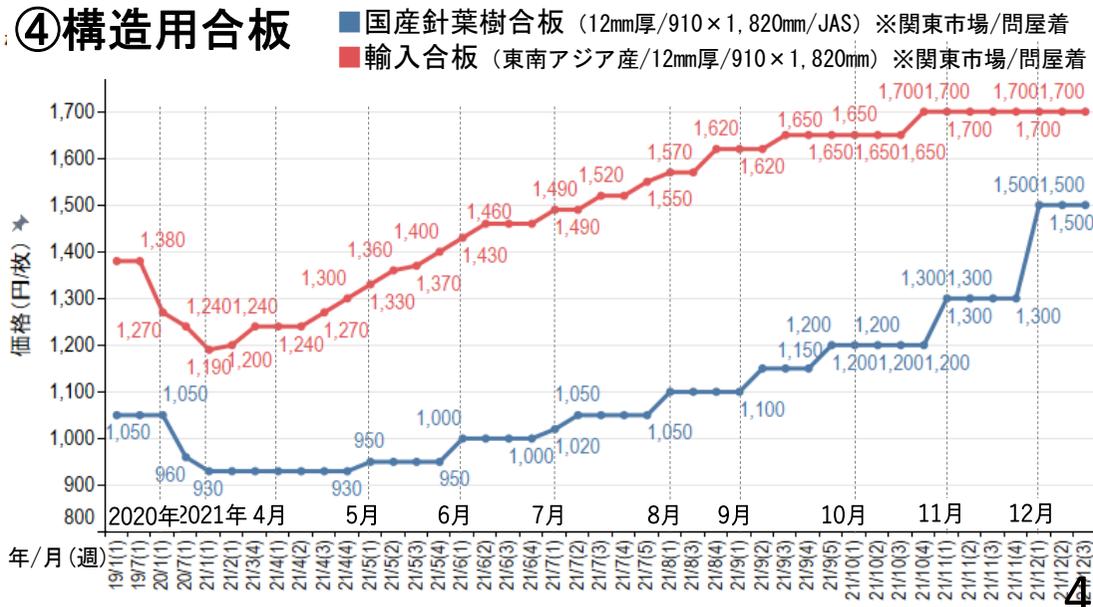
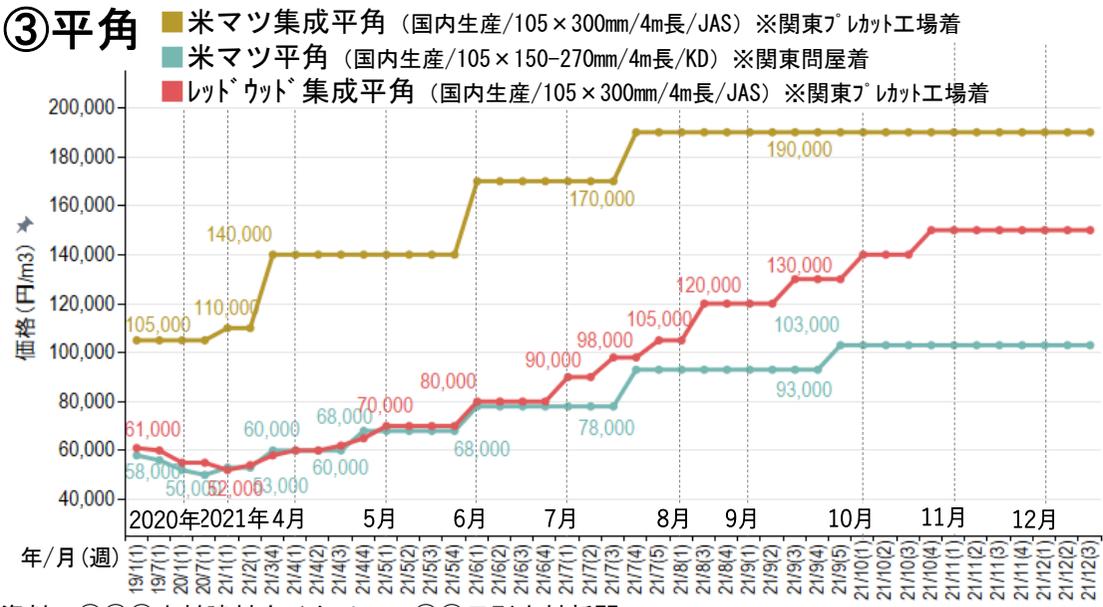
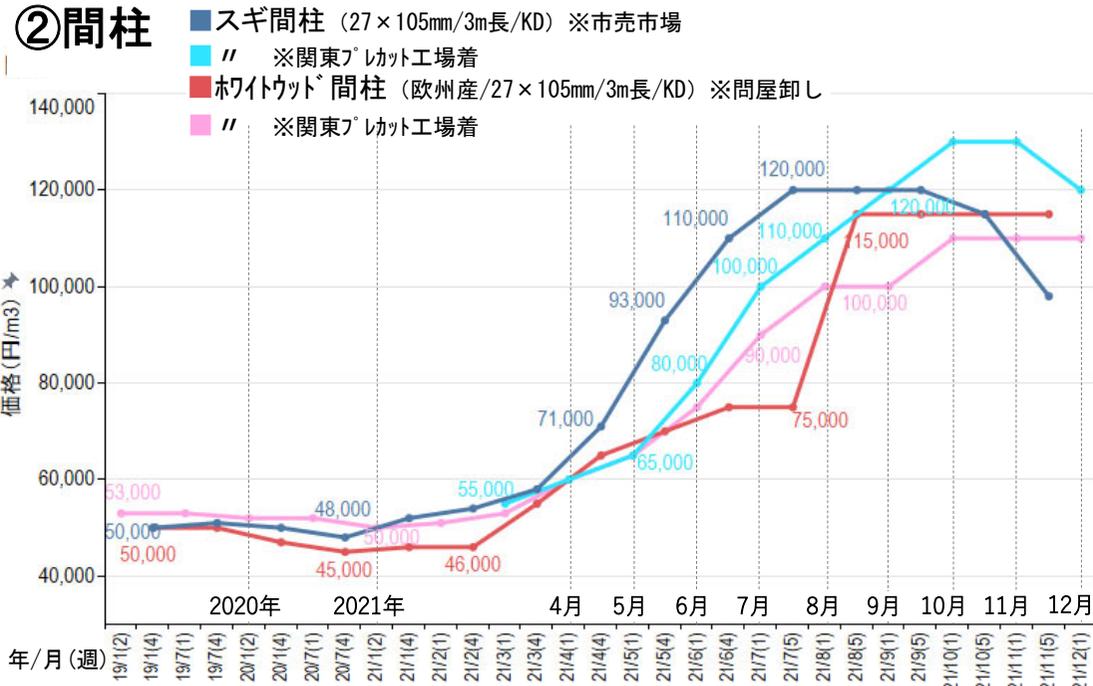
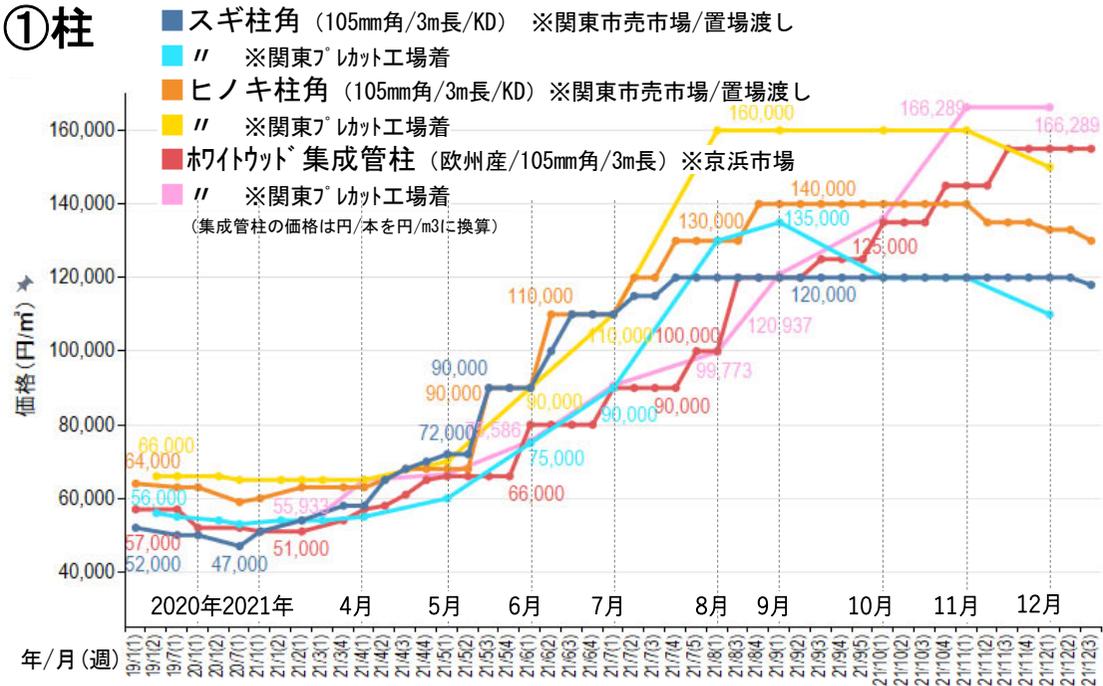
・トドマツ、カラマツ、スギについて、一昨年以降のコロナ禍による原木価格下落から回復している。

原木市場・共販所における木材価格の推移



(2) 製品価格

- 輸入材製品価格は、北米、中国、欧州など世界的な木材不足に加え、コンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- 国産材の代替需要により国産材製品価格も上昇し、直近では合板は上昇傾向、製材は高止まりか下落傾向となっている。

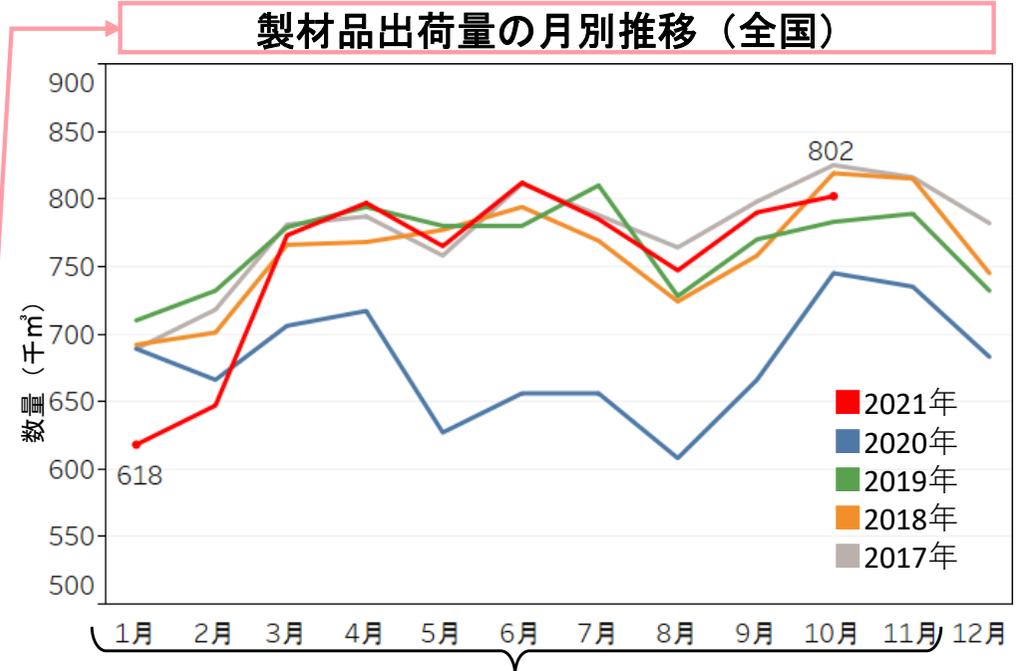
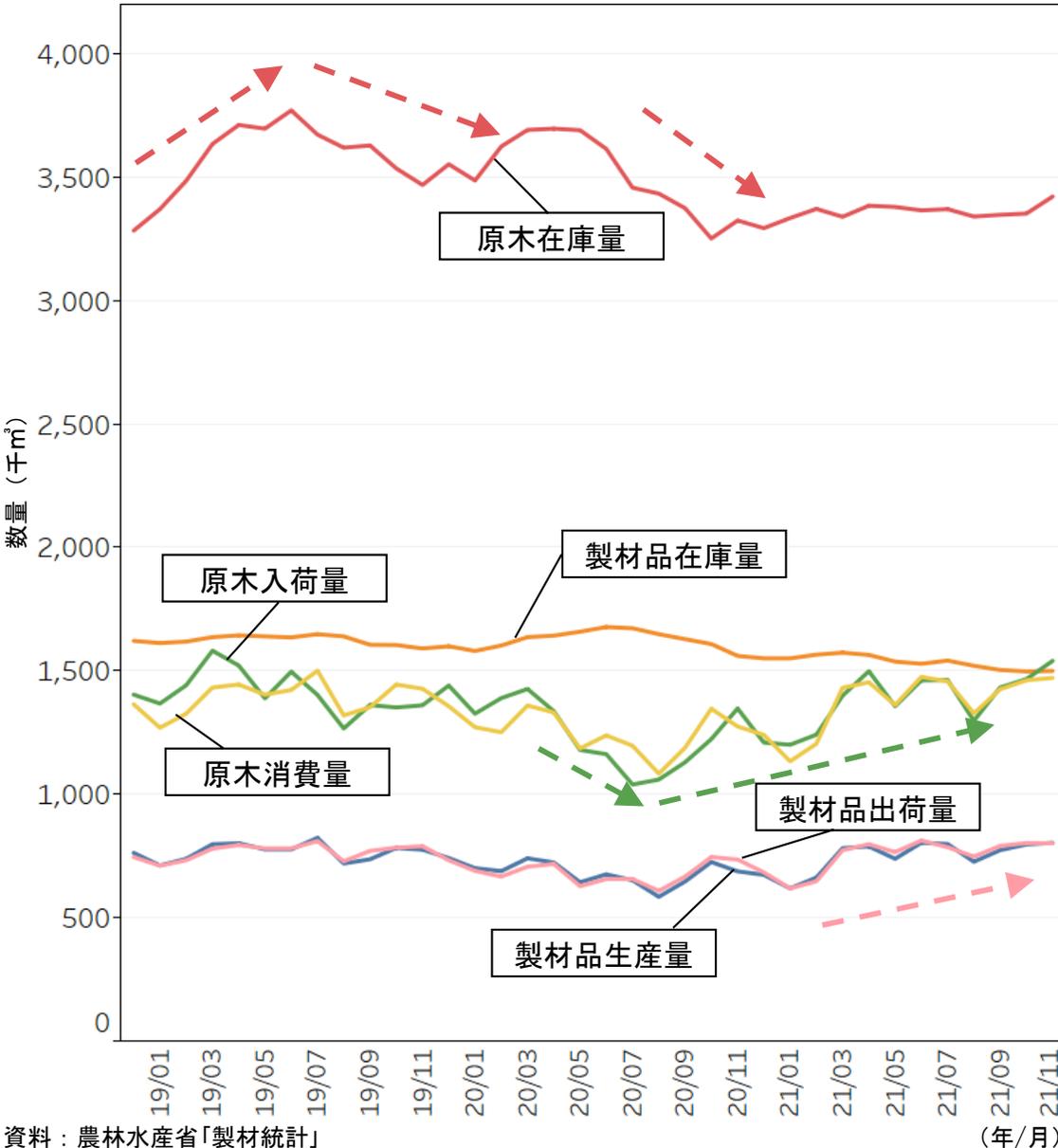


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

- 2021年1～11月の原木の入荷量は15,352千m³ (2019年比99%)。
- 同様に製材品の出荷量は8,337千m³ (2019年比99%)、コロナ禍前の水準となっている。

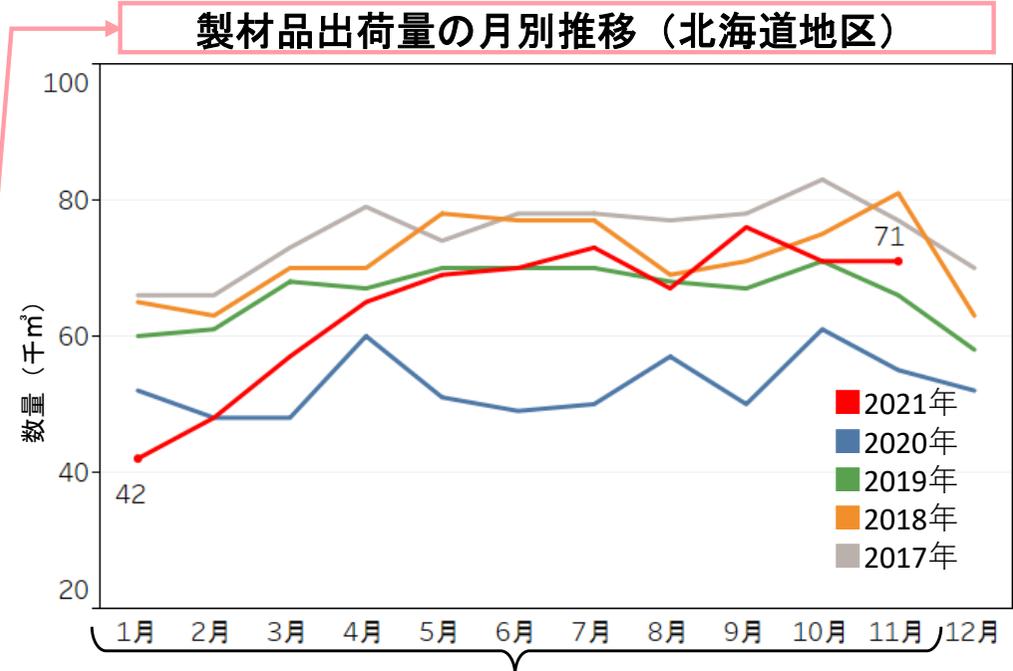
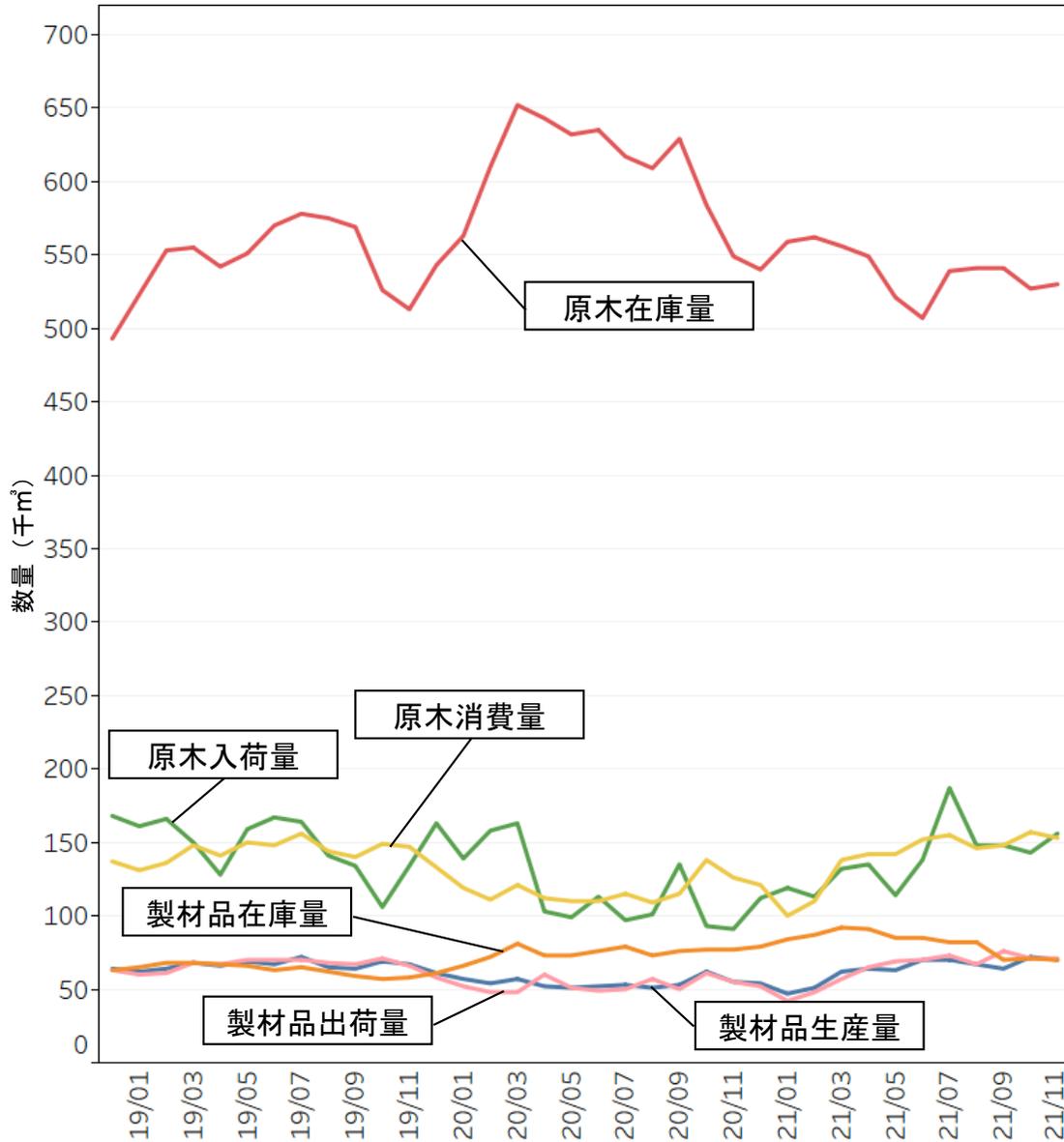


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～11月原木入荷量合計(千m ³)	15,114	15,276	15,534	13,615	15,352
2019年との比較*	97%	98%	—	88%	99%
1～11月出荷量合計(千m ³)	8,535	8,383	8,455	7,471	8,337
2019年との比較*	101%	99%	—	88%	99%

*2019年の数値を100%とした比較

(1) 製材 (北海道地区)

- 2021年1～11月の原木の入荷量は1,533千m³ (2019年比95%)。
- 同様に製材品の出荷量は709千m³ (2019年比96%)、コロナ禍前の水準となっている。

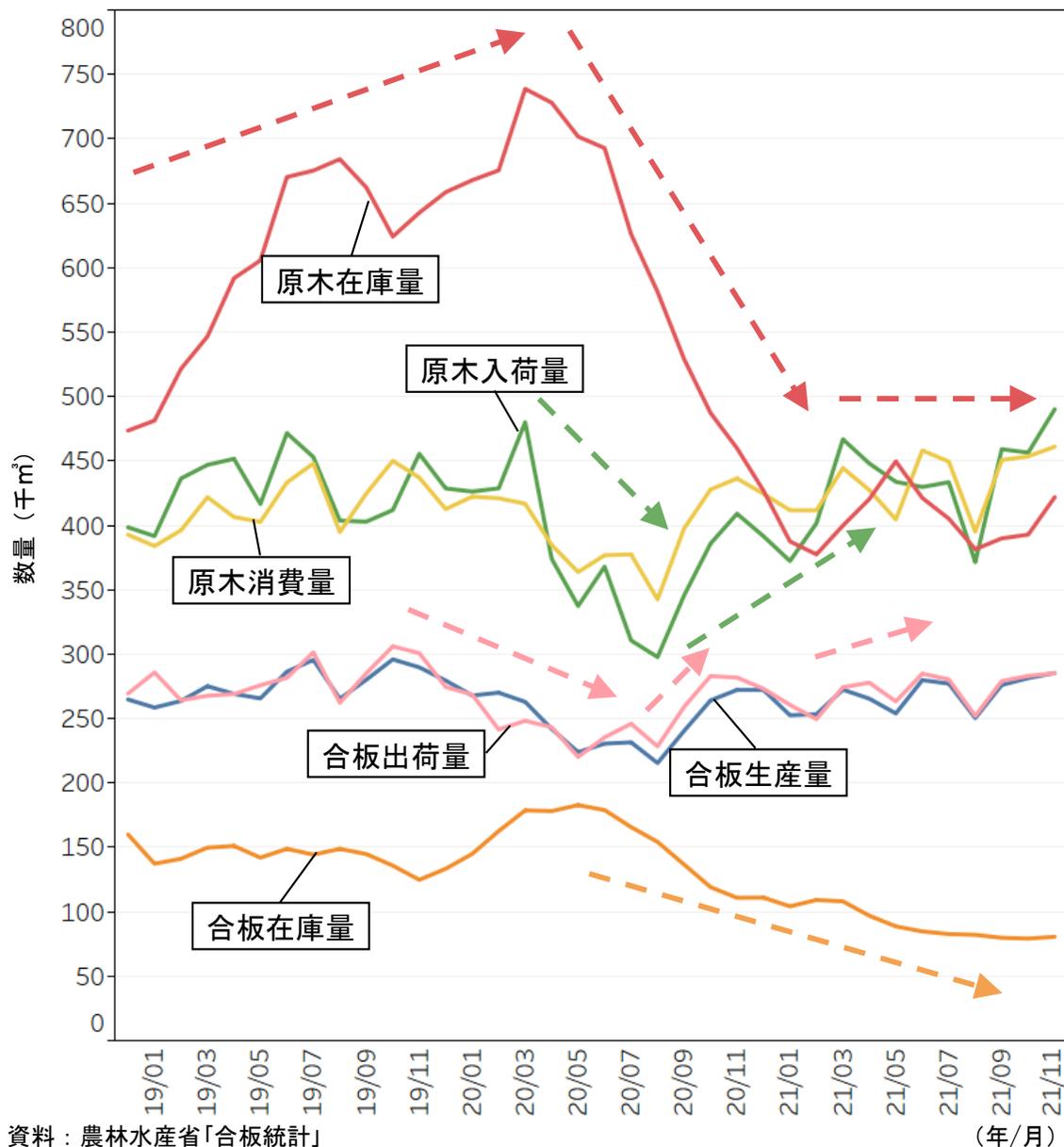


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～11月原木入荷量合計(千m ³)	1,719	1,633	1,610	1,292	1,533
2019年との比較*	107%	101%	—	80%	95%
1～11月出荷量合計(千m ³)	829	796	738	581	709
2019年との比較*	112%	108%	—	79%	96%

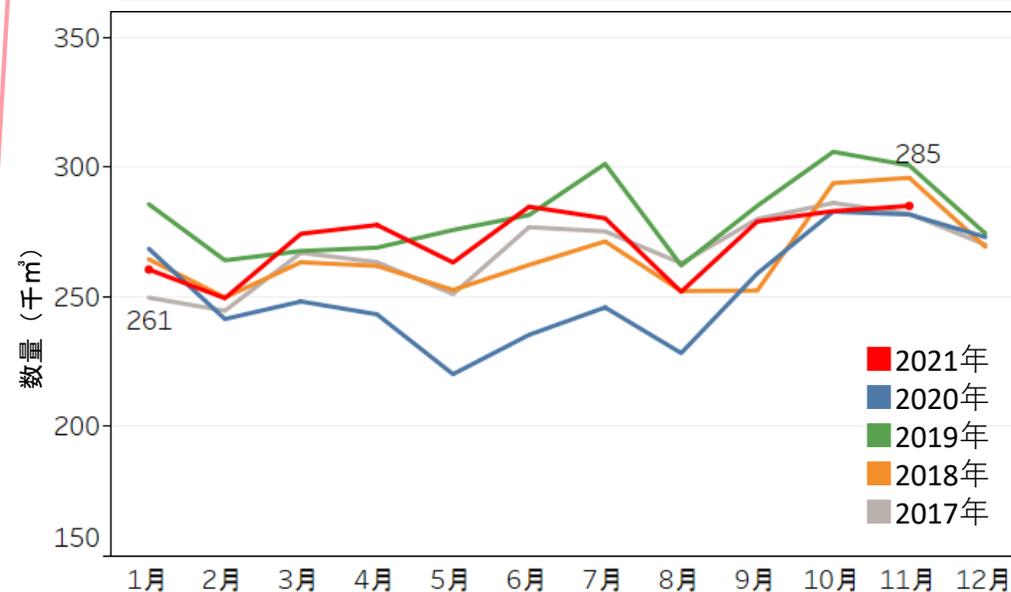
※2019年の数値を100%とした比較

(2) 合板 (全国)

- 2021年1～11月の原木の入荷量は4,762千 m^3 (2019年比100%)。在庫量は低い水準となっている。
- 同様に合板の出荷量は2,990千 m^3 (2019年比96%)、コロナ禍前の水準となっている。在庫量は2020年5月から減少傾向。



合板出荷量の月別推移 (全国)

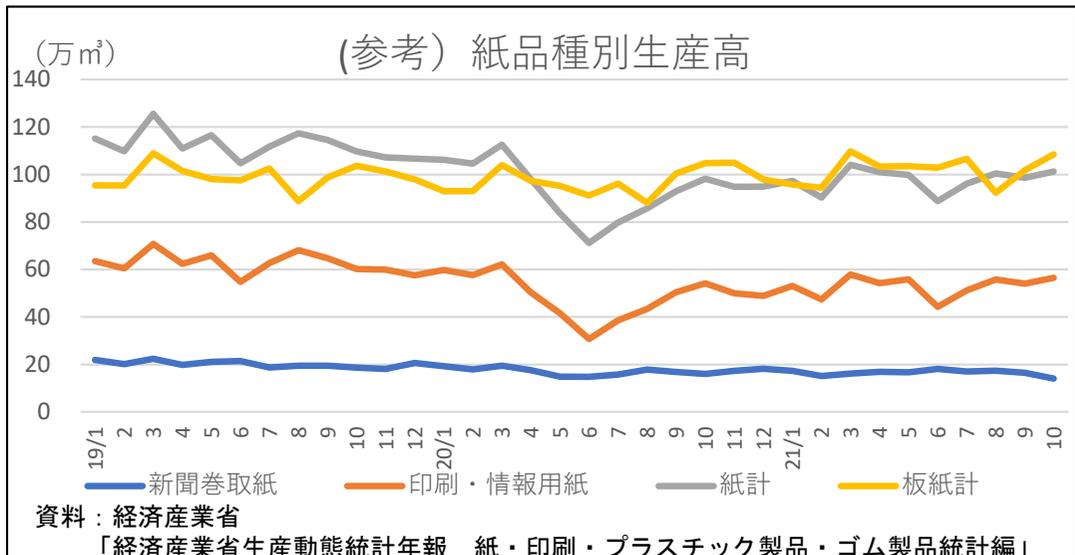
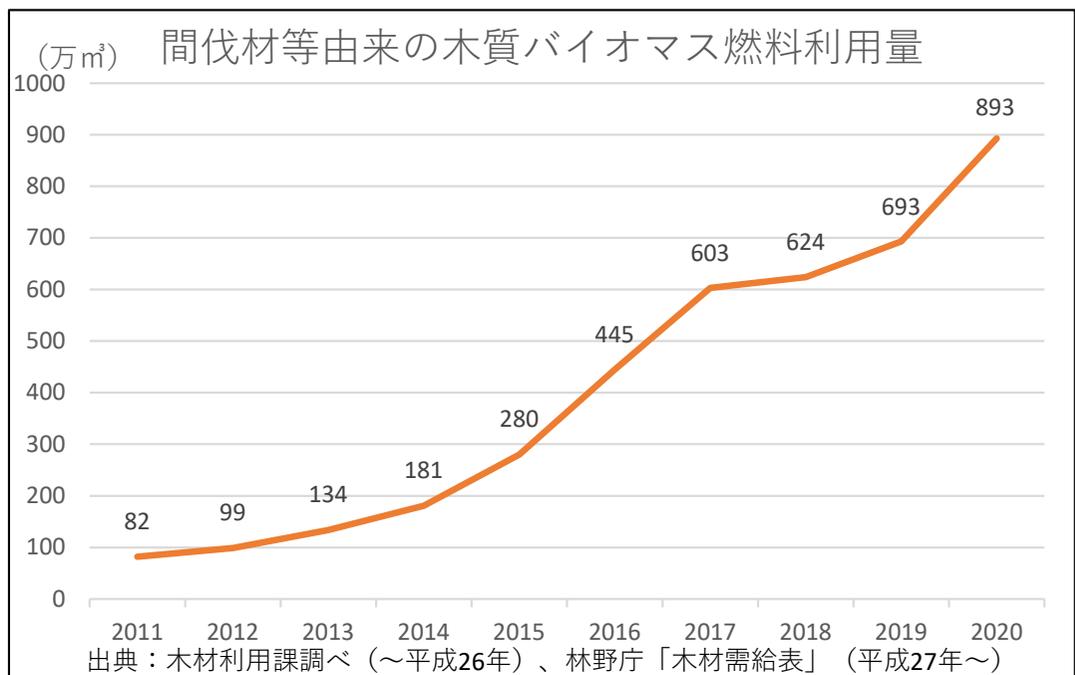
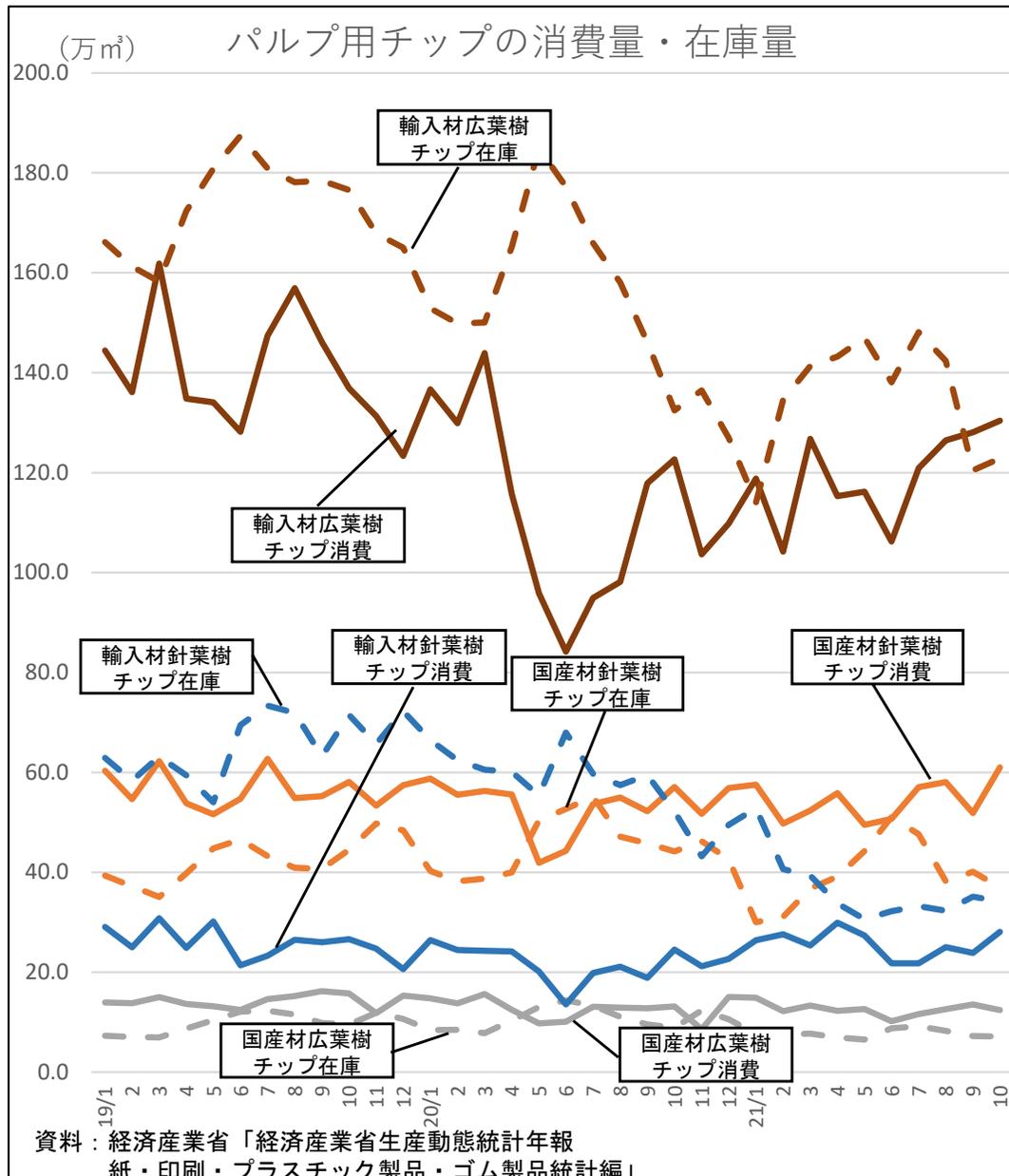


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～11月原木入荷量合計(千 m^3)	4,220	4,532	4,741	4,162	4,762
2019年との比較*	89%	96%	—	88%	100%
1～11月出荷量合計(千 m^3)	2,939	2,920	3,099	2,755	2,990
2019年との比較*	95%	94%	—	89%	96%

※2019年の数値を100%とした比較

(3) チップ (全国)

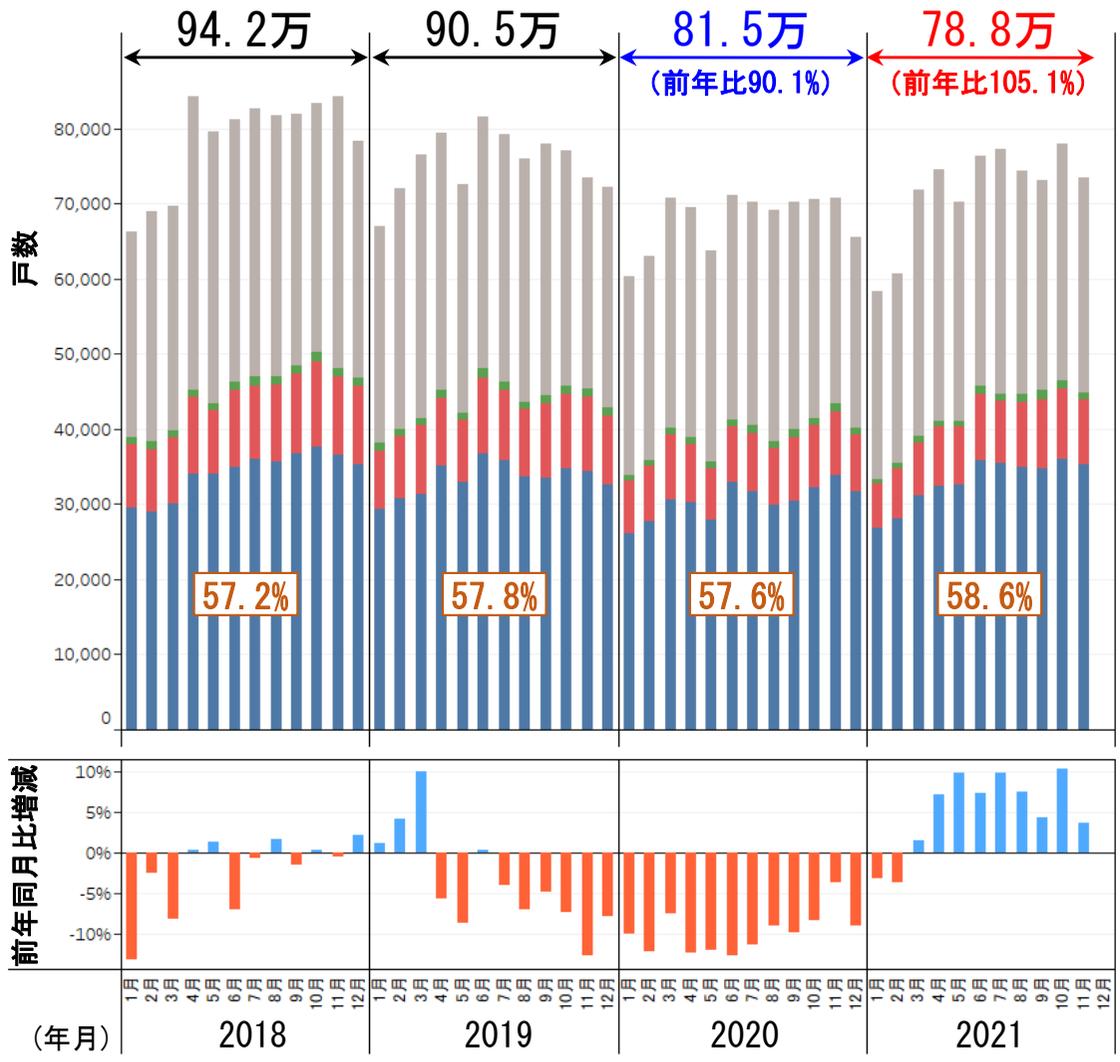
- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、一貫して増加傾向が続いている。
- 紙の生産高は2020年6月に減少したが、その後一定程度回復している。



3 住宅着工戸数の動向 (1) 全国の住宅着工戸数 (2018年1月～2021年11月)

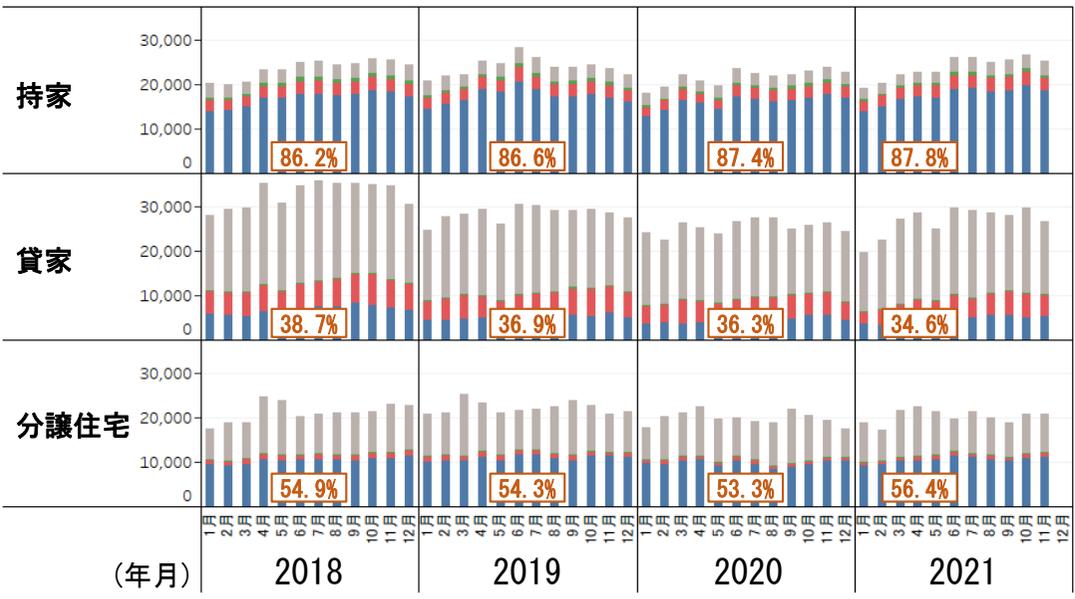
- 2020年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比90.1%）、このうち木造住宅は46.9万戸（同89.7%）。
- 2021年1～11月の新設住宅着工戸数は、78.8万戸（前年比105.1%）、このうち木造住宅は46.1万戸（同107.5%）。
- 2020年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。
（※2009年の新設住宅着工戸数は前年比72%となった。）

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2021年 1～11月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	788,091	749,697	105.1%	832,949	94.6%
■非木造	326,621	320,609	101.9%	352,452	92.7%
木造	461,470	429,088	107.5%	480,497	96.0%
■木造プレハブ	9,685	9,918	97.7%	11,129	87.0%
■2×4	88,202	85,441	103.2%	100,406	87.8%
■在来軸組	363,583	333,729	108.9%	368,962	98.5%
□木造率	58.6%	57.2%		57.7%	

(参考) 利用関係別の着工戸数 (ただし、「給与住宅」を除く。)

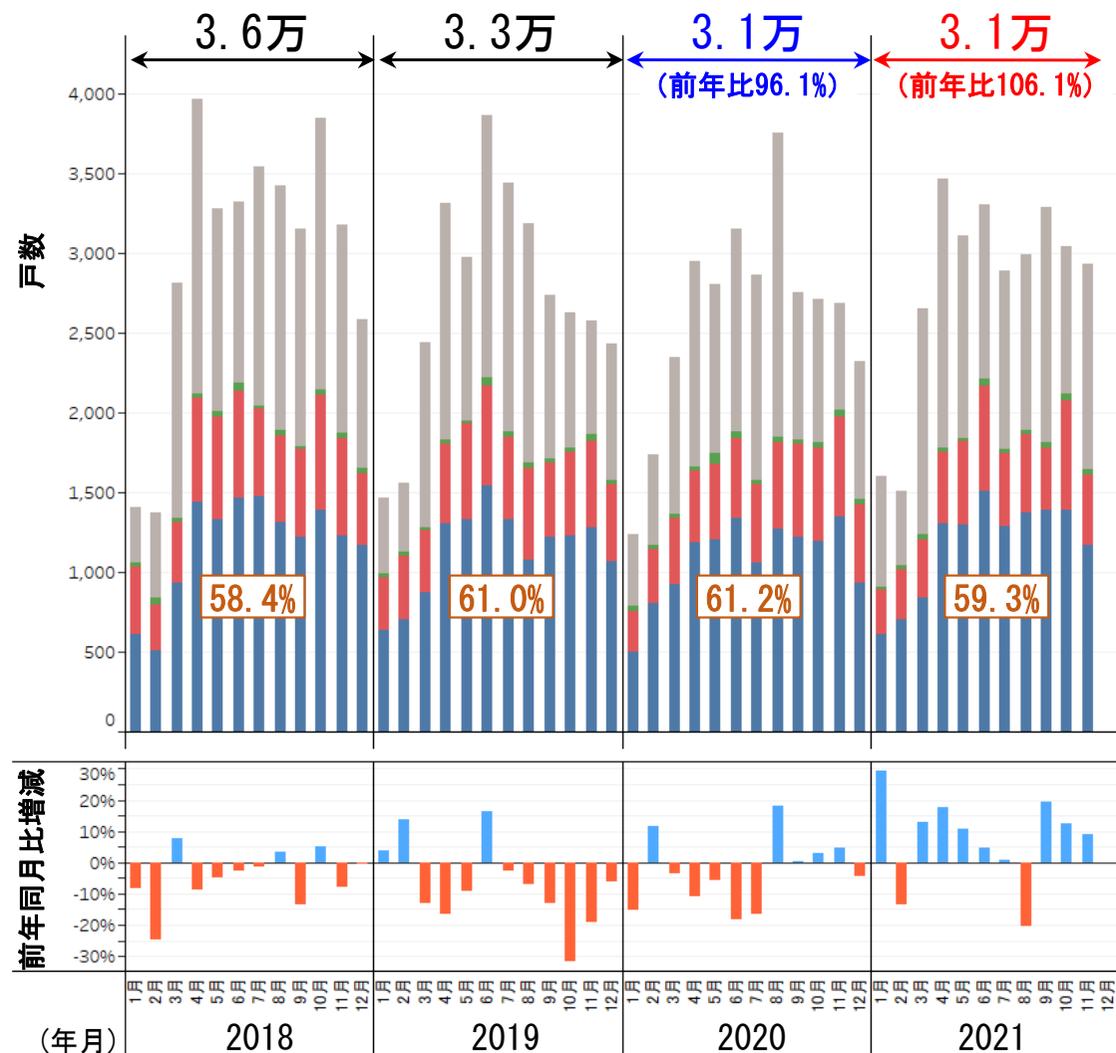


資料：国土交通省「住宅着工統計」

(2) 北海道地区の住宅着工戸数 (2018年1月～2021年11月)

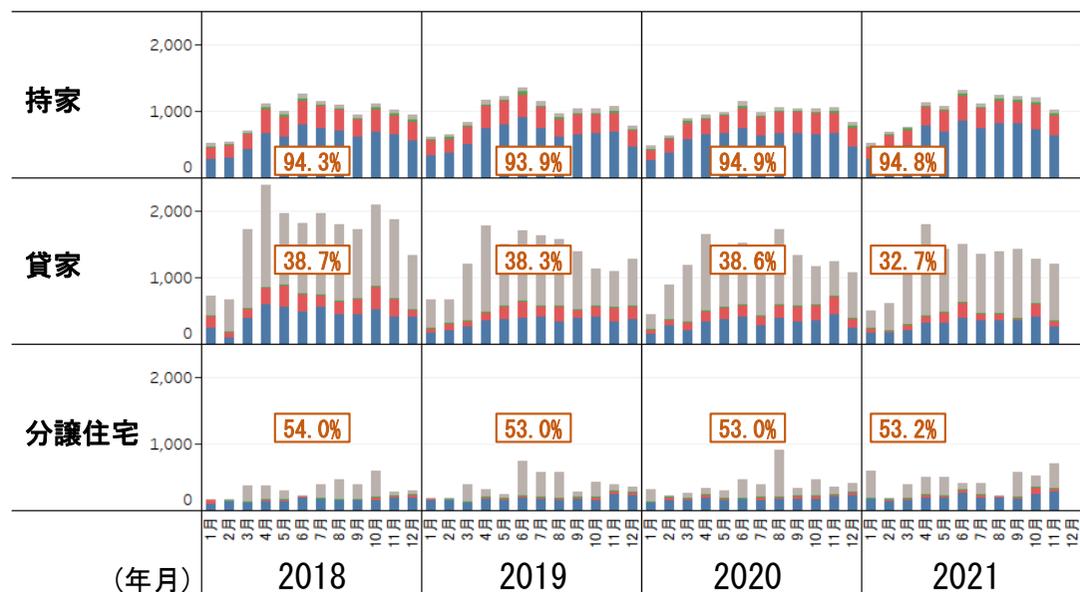
- 2020年の新設住宅着工戸数は、3.1万戸（前年比96.1%）、このうち木造住宅は1.9万戸（同96.3%）。
- 2021年1～11月の新設住宅着工戸数は、3.1万戸（前年比106.1%）、このうち木造住宅は1.8万戸（同103.2%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2021年 1～11月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	30,789	29,017	106.1%	30,195	102.0%
■ 非木造	12,518	11,314	110.6%	11,876	105.4%
■ 木造	18,271	17,703	103.2%	18,319	99.7%
■ 木造プレハブ	345	377	91.5%	323	106.8%
■ 2×4	5,050	5,263	96.0%	5,459	92.5%
■ 在来軸組	12,876	12,063	106.7%	12,537	102.7%
□ 木造率	59.3%	61.0%		60.7%	

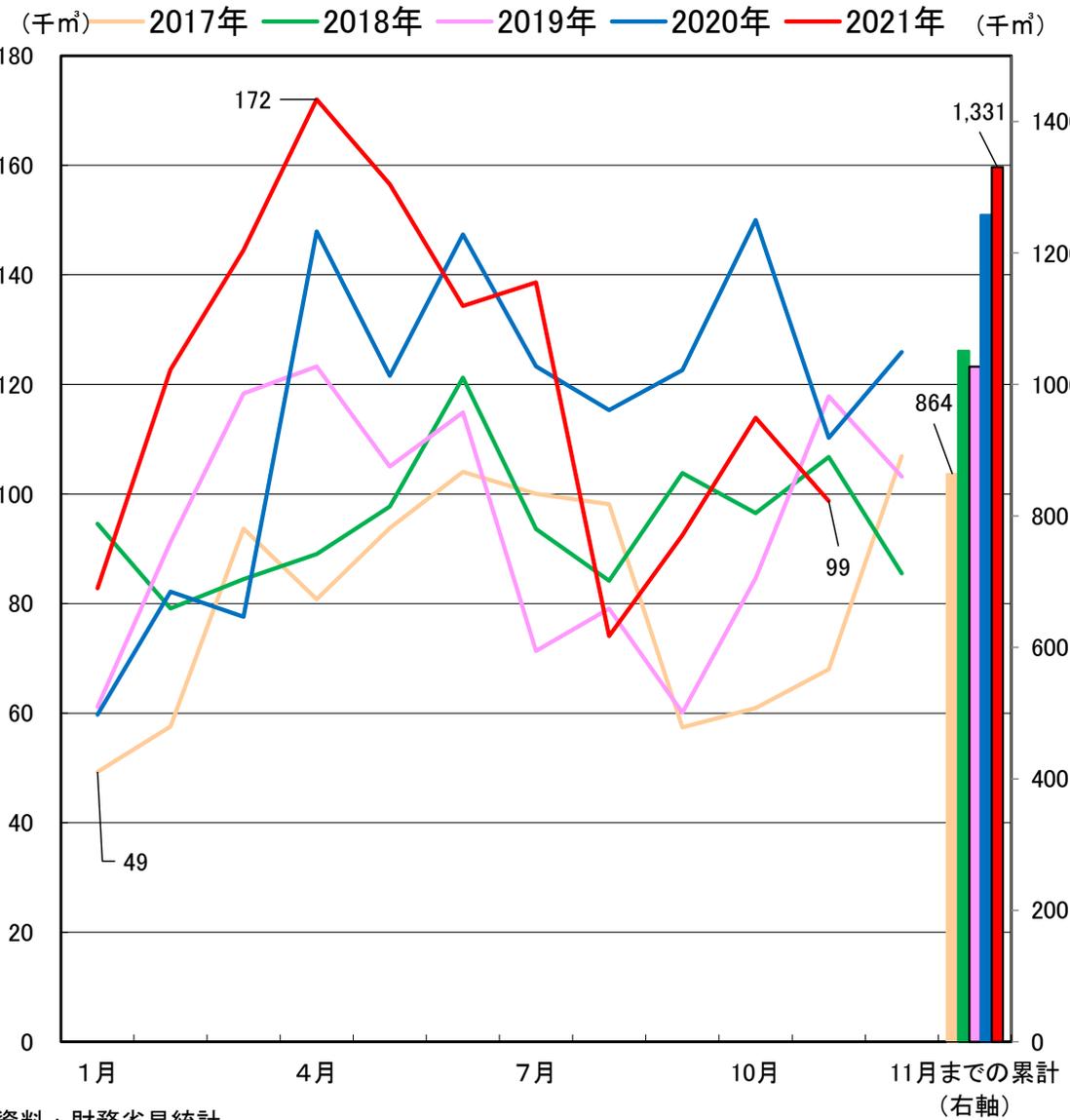
(参考) 利用関係別の着工戸数 (ただし、「給与住宅」を除く。)



4 木材輸出量

令和3年11月の輸出量は丸太99千 m^3 （前年同月比90%）、製材18千 m^3 （前年同月比98%）、合板等12千 m^3 （前年同月比111%）となった。1～11月までの累計は丸太1,331千 m^3 （前年同月比106%）、製材188千 m^3 （前年同月比122%）、合板等132千 m^3 （前年同月比138%）となった。

○丸太輸出量の推移（月別）



○木材輸出量の状況（累計：主な国別・品目別）

輸出先	単月(11月)			累計(1～11月)		
	主要品目内訳(千 m^3)			主要品目内訳(千 m^3)		
	前年比(%)			前年比(%)		
	丸太	製材	合板等	丸太	製材	合板等
中国	86 92%	6 98%	1 151%	1,111 106%	51 86%	11 157%
韓国	4 40%	1 86%	0 39%	114 103%	10 101%	1 159%
台湾	8 140%	1 152%	0 -	84 109%	13 129%	0 209%
米国	0 -	3 50%	0 -	0 -	55 121%	0 -
フィリピン	0 -	6 178%	10 108%	0 -	50 205%	119 138%
総計	99 90%	18 98%	12 111%	1,331 106%	188 122%	132 138%

○税関ごとの丸太輸出量

税関名	管轄※	合計(千 m^3) (1～11月)	比率 (1～11月)
函館税関	北海道,青森,岩手,秋田	182.2	13.7%
東京税関	山形,群馬,埼玉,千葉,東京,新潟,山梨	5.7	0.4%
横浜税関	宮城,福島,茨城,栃木,千葉,神奈川	13.8	1.0%
名古屋税関	長野,岐阜,静岡,愛知,三重	23.9	1.8%
神戸税関	兵庫,鳥取,島根,岡山,広島,徳島,香川,愛媛,高知	27.9	2.1%
大阪税関	大阪,京都,和歌山,奈良,滋賀,福井,石川,富山	36.8	2.8%
門司税関	山口,福岡,佐賀,長崎,大分,宮崎	407.4	30.6%
長崎税関	福岡,佐賀,長崎,熊本,鹿児島	633.1	47.6%
沖縄地区税関	沖縄	0.0	0.0%

※木材の集荷範囲とは対応していない

資料：財務省易統計
※貿易統計の第4403, 4407, 4412類を集計 ※四捨五入により、数値が合わないことがある